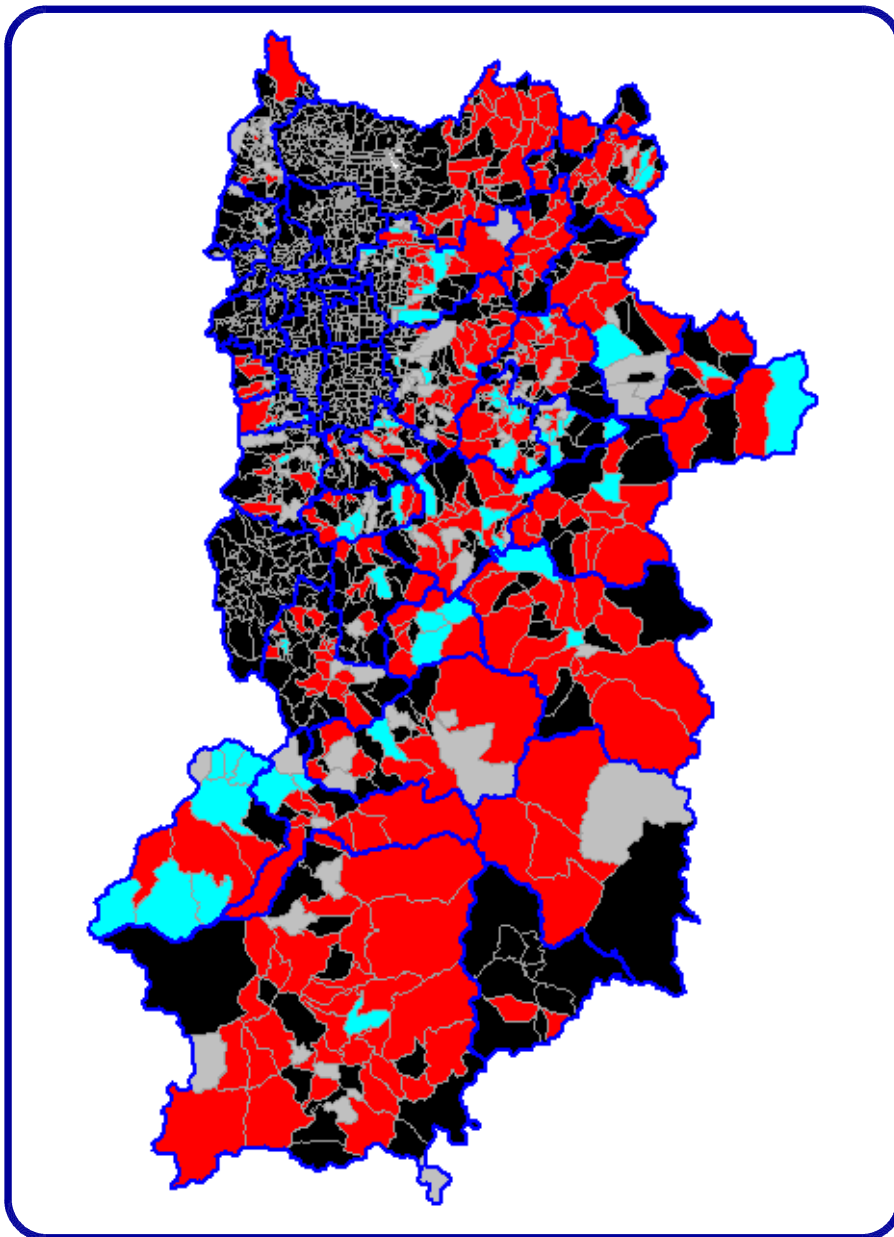


# 農業・林業集落アンケート調査によるノウサギの生息状況・被害状況(平成22年度)

## 1. 平成22年度林業集落アンケート調査によるノウサギの分布



左図は、平成22年度の林業集落アンケート調査による、ノウサギの分布である。

林業集落でノウサギが「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

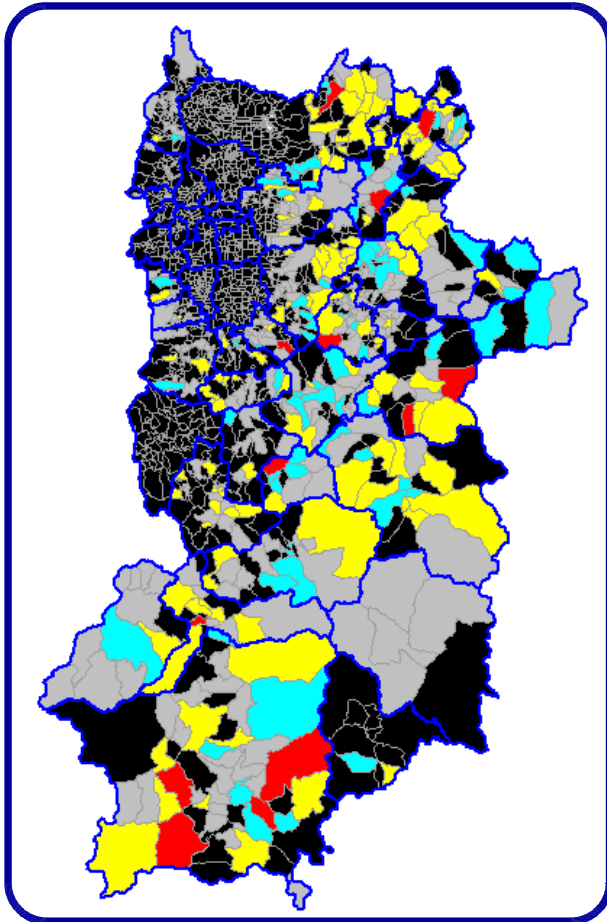
県内の広い地域からノウサギが「いる」との回答があった。

平成22年度	
いる	291集落
いない	71集落
回答無	120集落
回収無	1326集落
全	1808集落

参考)平成21年度	
いる	299集落
いない	185集落
回答無	6集落
回収無	1318集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 旧市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界  
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

## 2. ノウサギの山林での出没



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの山林での出没状況である。

ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった209集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」は約7%と少なく、「たまに見る」が約60%となった。ノウサギは県内の広い地域に分布するものの、目撃頻度はそれほど高くない。

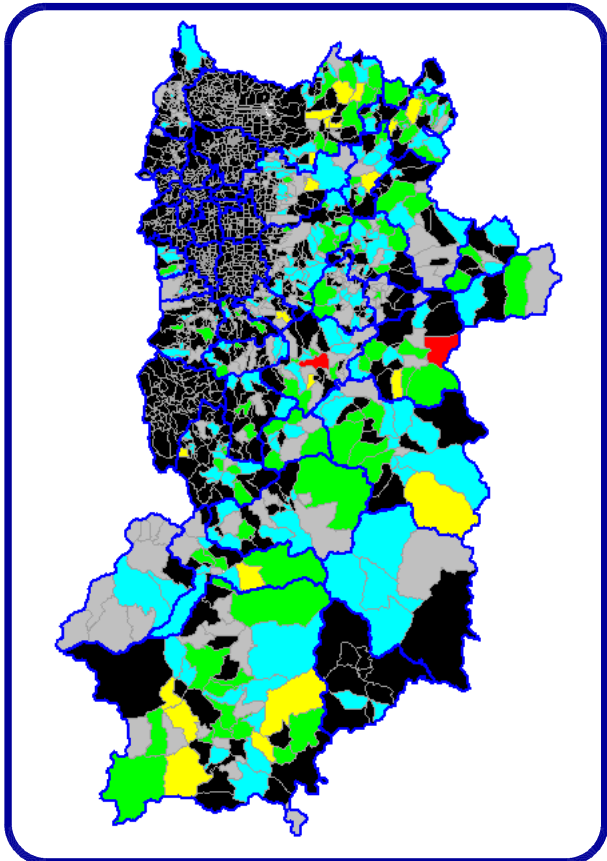
平成22年度

よく見る	14集落(6.7%)
たまに見る	125集落(59.8%)
あまり見ない	70集落(33.5%)
回答数	209集落

参考)平成21年度

よく見る	30集落(12.3%)
たまに見る	150集落(61.5%)
あまり見ない	64集落(26.2%)
回答数	244集落

## 3. ノウサギの林業被害の大きさ



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、ノウサギによる林業被害の大きさの意識調査の結果である。ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった283集落の内訳は下記の通りである。

ノウサギの林業被害は、「軽微」なものが最も多く、「大きい」と「深刻」は併せて約8%であった。ノウサギの林業被害は発生しても「軽微」なものがほとんどで、状況によりごく一部で被害が大きくなるものと考えられる。

ノウサギは、かつて造林が盛んに行われていた時代は、多大な林業被害を発生させていた。しかし、造林面積の減少と共に被害発生量も減少した。本設問の結果もそれを反映していると考えられる。

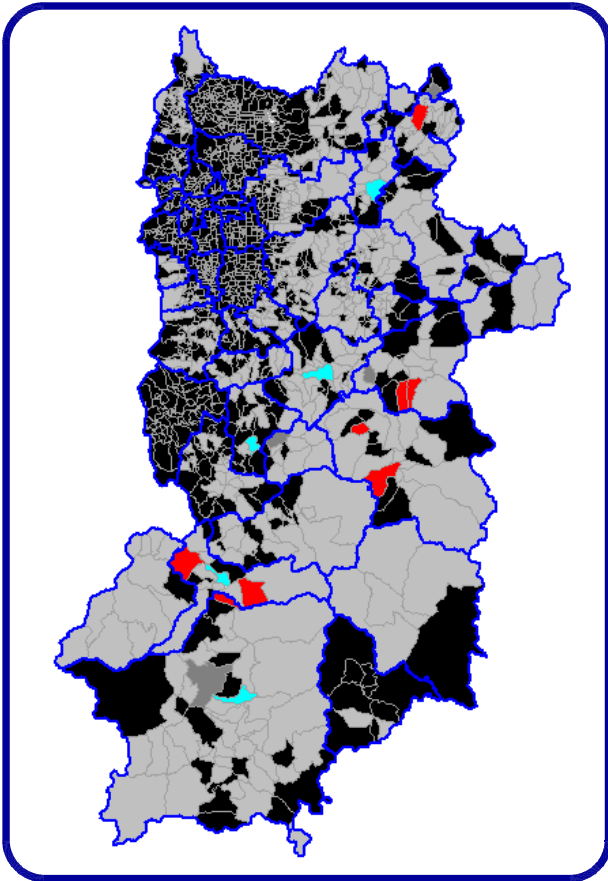
平成22年度

ほとんど無い	164集落(58.0%)
軽微	96集落(33.9%)
大きい(生産量の30%未満)	21集落(7.4%)
深刻(生産量の30%以上)	2集落(0.7%)
回答数	283集落

参考)平成21年度

ほとんど無い	119集落(42.2%)
軽微	134集落(47.5%)
大きい(生産量の30%未満)	24集落(8.5%)
深刻(生産量の30%以上)	5集落(1.8%)
回答数	282集落

#### 4. ノウサギの被害対策 侵入防止柵の効果(林地)



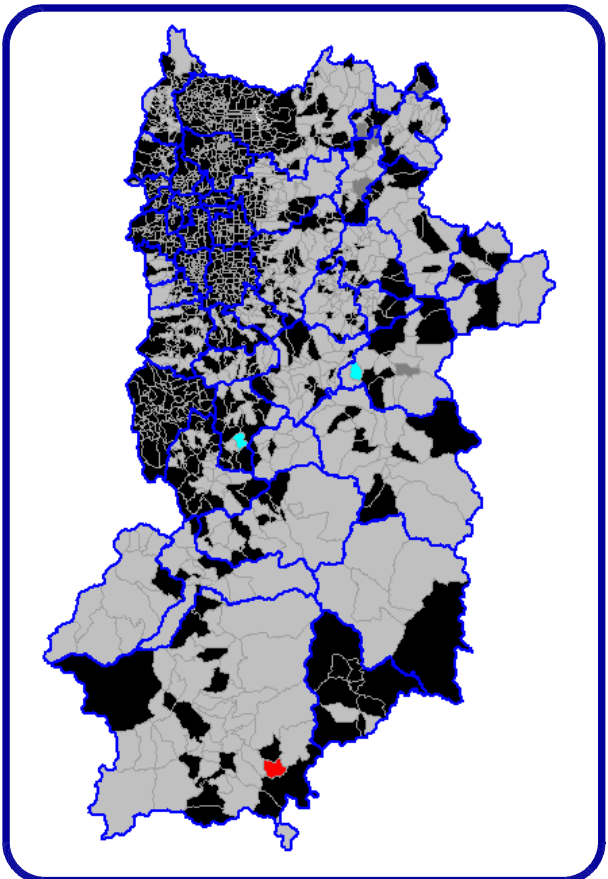
左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害対策の、侵入防止柵(防護柵)の効果の意識調査の結果である。

本設問の回答は、僅かに14集落からのみであった。

平成22年度		
■ 効果があった	8集落	
■ 効果がなかった	6集落	
回答数	14集落	

参考)平成21年度		
■ 効果があった	13集落	
■ 効果がなかった	7集落	
回答数	20集落	

#### 5. ノウサギの被害対策 有害捕獲の効果(林地)



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問の回答は、3集落のみからであった。

・平成22年度		
■ 効果があった	1集落	
■ 効果がなかった	2集落	
回答数	3集落	

・参考)平成21年度		
■ 効果があった	2集落	
■ 効果がなかった	0集落	
回答数	2集落	